



# スパークス東方投資見聞録

第21号

発行日:2009年7月22日

## アジア・ヘッジファンド・ランキング2009

### ハイライト:

- ヘッジファンドの運用資産減少
- Value Partners(香港)
- Artradis Fund Management(シンガポール)
- Aisling Analytics(シンガポール)
- 株式ロング・ショート戦略の苦戦
- 最後に

ヘッジファンド業界を対象とした金融専門誌である「Institutional Investor's Alpha」誌のJuly/August 2009号にて、アジア地域における最新のヘッジファンドランキング「Asia Hedge Fund 25」が発表されました。これはアジア地域におけるオルタナティブ運用資産残高の上位25社をランキングにしたもので、このランキングにおいて当社グループは4年連続でアジア第1位の座を獲得いたしました。

アジア株式市場の暴落によるパフォーマンスの悪化と投資家からの解約により、当社グループのオルタナティブ運用資産残高は2008年3月末時点の約81億ドルから約48億ドルへと-41%減少しましたが、他社の運用資産残高も同様に大きく減少したようです。

アジア・ヘッジファンド・ランキング

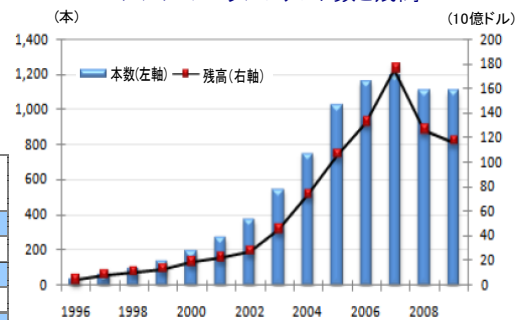
2009 Rank	Firm Name	Location	Firm Capital (\$ millions)
1	Sparx Group Co.	Tokyo, Japan	4,820
2	Value Partners	Hong Kong	3,190
3	Artradis Fund Mgmt	Singapore	2,722
4	Asia Debt Mgmt Hong Kong	Hong Kong	2,200
5	Arisaig Partners	Singapore	1,996*
6	Penta Investment Advisers	Hong Kong	1,910*
7	Pacific Alliance Investment Mgmt	Hong Kong	1,450
8	Target Asset Mgmt	Singapore	1,400
9	Aisling Analytics	Singapore	1,186
10	Ortus Capital Mgmt	Hong Kong	805*

出所: Institutional Investor's Alpha誌の情報をもとに、スパークス・アセット・マネジメント作成。  
(注)当社グループのオルタナティブ運用資産残高は、2009年3月末現在の数値を同日の為替レートで換算の上Institutional Investor's Alpha誌が集計したものです。他社は2009年4月1日現在。\*は同誌の予測。

### ヘッジファンドの運用資産減少

前回第20号でもお伝えしたように、2008年はアジアのヘッジファンドにとって大変厳しい運用環境であり、ランキング上位のヘッジファンドの運用資産残高も大きく減少しました。1年前には上位25社の合計で約522億ドルの運用資産残高がありましたが、2009年3月末時点では対前年比-42%の約301億ドルにまで縮小しました。これは、欧州や世界のヘッジファンドランキング上位の運用資産減少率と比べても、非常に大きな減少率です。

アジアのヘッジファンド数と残高



出所: ユーリカヘッジ(2009年1月末現在)

### Value Partners(香港)

ランキング第2位のValue Partnersは香港を拠点とするヘッジファンドで、3年連続アジア第2位の座を維持し続けていますが、2008年3月末時点と比べて運用資産残高は-46%の減少となりました。Value Partnersは主に中国特化型の株式ロング・バイアスファンドの運用を行っており、2008年は中国株式市場の暴落を受けて、同社の旗艦ファンドであるValue Partners Classic Fundが-48%の下落となるなど、中国に投資するファンドのパフォーマンスが悪化し、運用資産が大きく減少しました。また、Value Partnersはスパークスグループ社と同様に上場企業であり、2008年はコスト削減によりかろうじて黒字を確保することができましたが、運用資産残高減少の影響を受けて同社の株価は大きく下落しました。

### マーケット:

騰落率	6月	年初来
TOPIX	3.55%	8.21%
日経225	4.58%	12.40%
香港	1.14%	27.74%
上海	12.40%	62.53%
台湾	-6.65%	40.10%
韓国	-0.42%	23.62%
ベトナム	8.90%	42.03%
オーストラリア	3.59%	6.25%
インド	-0.90%	50.24%
シンガポール	0.17%	32.45%
マレーシア	2.98%	22.64%
タイ	6.61%	32.79%
インドネシア	5.74%	49.53%
フィリピン	2.04%	30.18%
MSCIアジア(除く日本)	-0.69%	33.99%

\*上記マーケット騰落率に使用している株価指数の詳細については次頁注書きをご参照下さい。

## アジア・ヘッジファンド・ランキング2009

### Artradis Fund Management(シンガポール)

ランキング第3位のArtradis Fund Managementはシンガポールを拠点とするヘッジファンドで、2年連続アジア第3位の座を獲得しましたが、2008年3月末時点と比べて運用資産残高は-42%の減少となりました。

Artradis Fund Managementは、前回第20号でご紹介したArtradis AB2 Fund(3つの部門でアジア・ヘッジファンド・アワード2009最優秀賞を受賞)の運用を行うヘッジファンドです。同社を代表するマルチ戦略ファンドであるAB2 FundとBarracuda Fundの2008年のパフォーマンスは、それぞれ+35%、+27%と好調でしたが、投資家からの解約が増加して運用資産が大きく減少しました。2008年は金融危機の影響が広がる中、パフォーマンスが好調で、比較的流動性のあるファンドに投資家の解約が殺到する傾向が見られ、AB2 FundとBarracuda Fundもパフォーマンスが好調で流動性が確保されていたことが、かえって解約を増加させる結果となりました。

### Aisling Analytics(シンガポール)

ランキング第9位のAisling Analyticsはシンガポールを拠点とする、運用資産約12億ドルのMerchant Commodity Fundというコモディティに特化したファンドの運用を行うヘッジファンドです。

Merchant Commodity Fundは、世界中のコモディティ市場においてロング(買い持ち)とショート(売り持ち)のポジションから積極的にリターンを追求するファンドですが、厳しいマーケット環境の中でボラティリティが高まった2008年は+24%のリターンをあげ、CTA部門でアジア・ヘッジファンド・アワード2009の最優秀賞を受賞しました。Merchant Commodity Fundも前述の2ファンドと同様に、パフォーマンスが好調で、流動性が確保されていた

ことから多額の解約に苦しみ、今回のヘッジファンド・ランキングにおいても2008年の7位から順位を2つ落とす結果となりました。

### 株式ロング・ショート戦略の苦戦

今回のアジア・ヘッジファンド・ランキングにおいては、株式ロング・ショートファンドの苦戦が顕著に見られました。特にランキング上位のヘッジファンドは株式ロング・ショート戦略への依存度が高く、上位25社中12社は主に株式ロング・ショート戦略の運用を行うヘッジファンドです。米HFR(ヘッジファンド・リサーチ)社の調査によると、2008年はアジアの株式市場が大きく下落した影響を受け、アジアの株式ロング・ショート戦略において計約290億ドルもの損失が発生した模様です。こうした環境の中、香港のTree Line Investment Managementや、同じく香港のWard Ferry Managementといった主に株式ロング・ショートファンドの運用を行うヘッジファンドが運用資産残高を減らし、昨年のランキングから順位を大きく下げました。

### 最後に

このような厳しい環境下においても当社グループが首位の座を堅持できたのは、当社グループのオルタナティブ投資戦略が下落局面で威力を発揮し、パフォーマンスの悪化を相対的に軽微に抑えられたことのみならず、投資家の皆様が当社グループの運用力を信頼し続けていただいた賜物であると、心より感謝致します。激動する経済・市場環境の中、引き続き投資家の皆様の信頼を獲得できるよう、より一層運用力を強化してまいりますので、今後ともご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

ホームページもご覧ください。  
<http://www.sparxgroup.com.hk/>

© 2009 SPARX International (Hong Kong) Limited

\*前頁のマーケット騰落率に使用している株価指数の詳細は次の通り。TOPIX:東証株価指数、日経225:日経平均株価、香港:HANG SENG INDEX、上海:SHANGHAI STOCK EXCHANGE COMPOSITE INDEX、台湾:TAIEX INDEX、韓国:KOSPI INDEX、ベトナム:VN INDEX、オーストラリア:S&P/ASX 200 INDEX、インド:SENSEX30 INDEX、シンガポール:STRAITS TIMES INDEX、マレーシア:KUALA LUMPUR COMPOSITE INDEX、タイ:STOCK EXCHANGE OF THAI INDEX、インドネシア:JAKARTA COMPOSITE INDEX、フィリピン:PSEI - PHILIPPINE STOCK EXCHANGE INDEX、MSCIアジア(除日本):MSCI AC ASIA PACIFIC EX-JAPAN

## 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

## 追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

### ●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

### ●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

## ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号  
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員